

日仏交流関係史年表

西暦	出来事
1858年	9月、日仏修好通商条約調印
1859年	初代駐日フランス総領事にベルクールが着任
1861年	ベルクール、初代在日フランス公使に昇任 ヴィクトール・ピニヤテル、来崎し出島5番地で父とともにピニヤテル商会を設立
1862年	ロニー『日仏辞典』、パジェス『和仏辞典』刊行
1863年	大浦42番地に在長崎フランス領事館を開設。デュリが初代領事を務める
1864年	二代駐日フランス公使にロッシュが着任 12月、パリ外国宣教師会のフューレ神父とプチジャン神父の指導によって大浦天主堂が竣工
1865年	3月、プチジャン神父、大浦天主堂において潜伏キリシタンの信仰表明に立ち会う
1867年	デュリ、パリ万国博覧会に出席する訪欧使節団(代表:徳川昭武)に同行、一行を案内・通訳 6月、浦上四番崩れ起こる
1868年	2月、済美館、広運館と改称
1870年	在長崎フランス領事館が閉鎖 10月、デュリ、広運館のフランス語教師として雇用される
1871年	デュリ、10月までに広運館のフランス語教師を退職、長崎を去る
1873年	2月、明治政府、キリシタン禁制の高札撤去
1878年	ド・ロ神父、出津教会主任司祭に任命され、外海地方に赴任
1879年	ワンサン・フロラン指導のもと立神第1ドックが竣工
1883年	ド・ロ神父、出津救助院を開設
1885年	7月、ロチ、初めての来崎。滞在中の日々をおカネさんと暮らす
1886年	大浦12番地で在長崎フランス領事館の業務が再開
1887年	ロチ、おカネさんと暮らした経験をもとに作品「お菊さん」を刊行
1900年	義和団事件において日仏両国は八ヶ国連合軍に参加 12月、ロチ、義和団事件勃発に際して二度目の来崎を果たす
1901年	7月、浦上村山里の坂本国際墓地の墓域にフランス海軍墓地が開設
1903年	シロ、大浦33番地でフランスホテルを開業
1905年	ロチ、二度目の来崎時の経験をもとに作品「お梅が三度目の春」を刊行
1908年	在長崎フランス領事館が再び閉鎖
1920年	在長崎フランス代理領事館として業務再開。代理領事はヴァシエ、ブクリと続く
1949年	8月、長崎ピエール・ロチ協会、ブクリ代理領事の支援のもと発会式を迎える
1950年	6月、諏訪公園(現:長崎公園)においてピエール・ロチ記念碑除幕式
1957年	長崎ピエール・ロチ協会、長崎日仏協会と改称
2018年	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録
2021年	7月、フランス海軍墓地開設120周年記念式典を挙行

参考文献 直原利夫「日本仏語史(IV)」(『天理大学学報』第26巻第4号、1975年)
富田仁『長崎フランス物語』(白水社、1987年)
『新長崎市史』第3巻近代編、2021年